

August 2026 / Fact & Policy Record

元CDC所長の証言：妊婦へのコロナワクチン接種に関する検証

ロバート・レッドフィールド氏の「判断の誤り」発言と、
明らかになった内部情報の全貌

The Transparency
Dossier

01



証言

元CDC所長が「妊婦への接種は間違いだった」と明確に断言。

02



内部記録

政府高官たちのテキストメッセージが流出。推奨方針の裏にあった「データなし (Data Free)」の現実。

03



データ論争

NEJM論文とファイザー社資料における流産率の議論と、レッドフィールド氏による痛烈な批判。



CRITICAL CONTEXT BOX

氏名 Dr. Robert Redfield (ロバート・レッドフィールド)

役職 第18代CDC所長

任期 2018年3月 – 2021年1月 (トランプ政権下)

背景 ウイルス学者、HIV研究における長年のキャリア。

重要背景: 任期は2021年1月まで。つまり、妊婦への積極的なワクチン推奨が本格化する前に所長を退任している。(推奨は後任のワレンスキー氏の時代に進行)

2026.08.11-12



出来事

NewsNation 番組「Katie Pavlich Tonight」での独占インタビュー

再燃の火種 (Catalyst)

上院議員によるファウチ氏の「政府支給携帯のテキストメッセージ」の公開。これが再燃の火種となった。

影響 (Impact)

元CDC所長がかつての政府方針を真正面から否定したことで、英語圏および日本語圏で大規模な議論を巻き起こした。

「妊婦にワクチンを接種したのは
「妊婦にワクチンを接種したのは間違いだったと思う。
妊婦に接種すべきだとは全く思っていなかった。」

「感染を防ぐものじゃなかったから、その勧告には反対だった。」

*I think it was a mistake to vaccinate pregnant women...
I never thought we should vaccinate pregnant women.
I was not in favor of that policy recommendation because
the COVID vaccine did not prevent infection.*

レッドフィールド氏の論理構造

本来の有効性

「重症化や死亡の高リスク層（主に65歳以上）の予防」に特化。

妊婦への推奨の前提

「母親を感染から守ることで、胎児を守る」という理論。

致命的な欠陥

ワクチンには感染予防効果がなかった。

母親が感染を免れない以上、「胎児を守る」という前提は崩壊する。妊婦集団への推奨は医学的合理性を欠いていた。



“Data Free”の現実

2026年8月、ロン・ジョンソン上院議員とランド・ポール上院議員
員が公開した政府支給端末の記録。

2021年1月25日～26日（方針決定の極秘裏のやり取り）

Dr. Anthony Fauci

Dr. Rochelle Walensky
（当時のCDC所長）

Vivek Murthy
（当時の公衆衛生局長官候補）

内部通信記録 I

Vivek Murthy

Jan 25, 2021

「妊婦への接種で早期と後期のどちらが好ましいか、データや理論的理由はあるか？」

Dr. Anthony Fauci

Jan 26, 2021

「データも理論的理由もない
(no data or theoretical reason)」

Dr. Rochelle Walensky

Jan 25, 2021

「データがない (data free)」



公衆衛生の最高権威たちが、方針形成の初期段階で「妊婦に関するデータが全く存在しない」ことを内密に認めていた。

内部通信記録II：認識されていた理論的リスク

 John Mascola (NIAID)

Jan 26, 2021

「初期研究では、発熱と妊娠初期の流産率上昇の可能性から、第一三半期を避けている」

 Dr. Anthony Fauci

Jan 26, 2021

「2回目接種後のサイトカインスームや発熱が、理論上、第一三半期の流産と関連する可能性がある」

Dr. Rochelle Walensky

Jan 26, 2021

「間違いなく良い指摘だ。特に2回目の後は。(Definitely a good point, esp after dose two)」

表向きには推奨が進む一方で、内部では「流産リスク」が明確に議論・承認されていた。

データ論争 1: NEJM論文

Evidence Card

2021年4月21日公開 「Preliminary Findings of mRNA Covid-19 Vaccine Safety in Pregnant Persons」

完了した妊娠: **827件**

妊娠損失: **115件**

自発的流産率: **12.6%** (104件)



レッドフィールド氏の痛烈な指摘:

「これは詐欺的な研究 (fraudulent study) だ。おそらくファイザーによってゴーストライトされたものだろう。」

データ論争 2: ファイザー社内部データ

Evidence Card

Pfizer 5.3.6 Cumulative Analysis of Post-authorization Adverse Event Reports (Page 12)

レッドフィールド氏の指摘する流産率:

81%

文脈の補足 (Dr. Thorp): 番組内で提示された文脈。
第三三半期の接種を計算から除外した場合、
流産率は約82%に再計算されると指摘されている。

※これらの数値は、インタビュー時点でレッドフィールド氏や複数の議員によって繰り返し引用・主張されているものである。

方針の転換と臨床試験の不在

2020: レッドフィールド体制

スタンス: 慎重

- 事実: 妊婦は通常、治験から除外されていた。
- 発言 (2020ウェビナー): 「妊婦への提供を計画するなら、第3相試験に入れる必要がある」

2021以降: ワレンスキー体制

スタンス: 積極的推奨

事実: 内部で「データなし (Data Free)」と認識されながらも、積極的な接種推奨が開始・推進された。

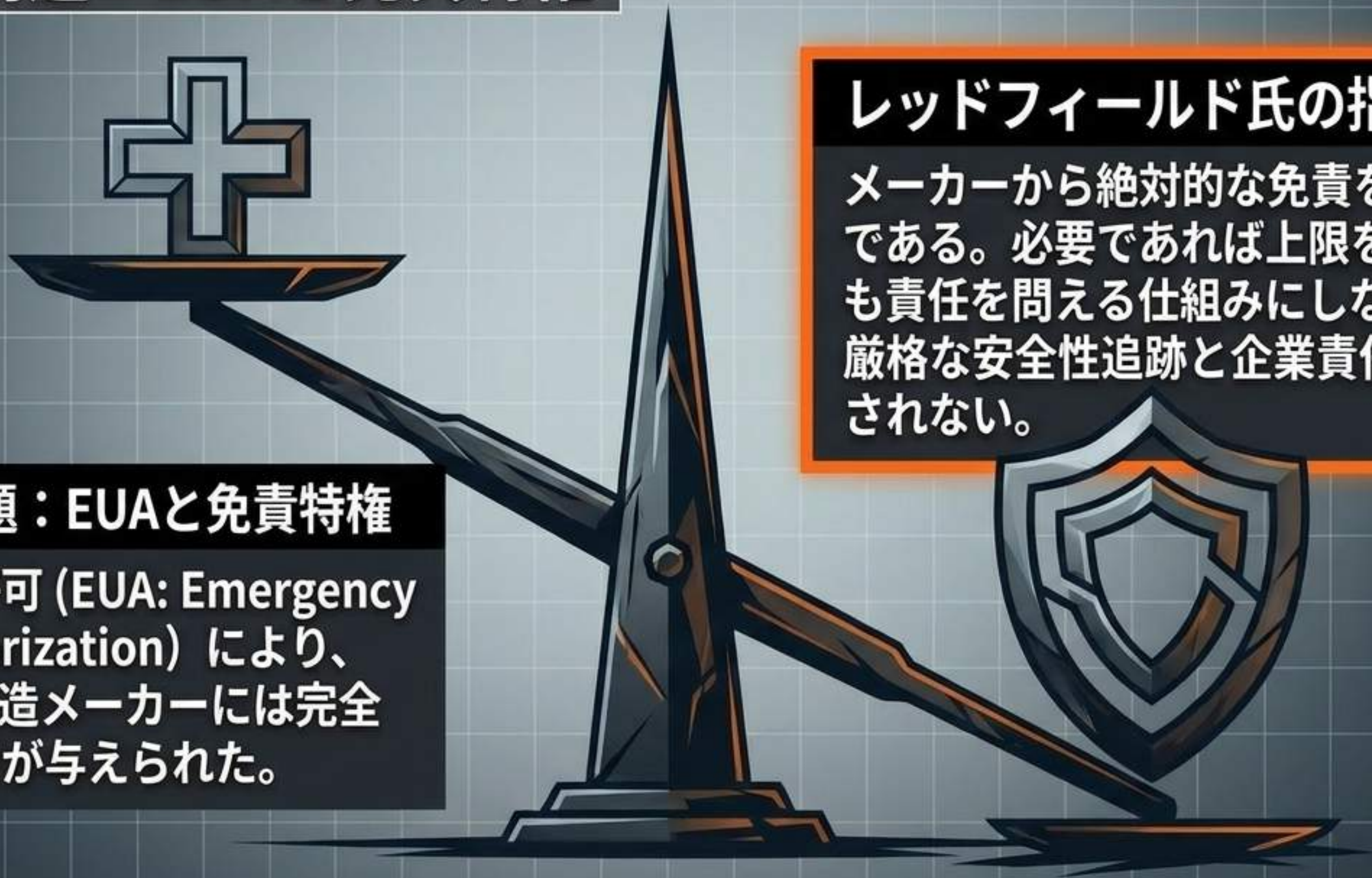
構造的問題：EUAと免責特権

レッドフィールド氏の指摘

メーカーから絶対的な免責を外すべきである。必要であれば上限を設けてでも責任を問える仕組みにしなければ、厳格な安全性追跡と企業責任は果たされない。

構造的問題：EUAと免責特権

緊急使用許可 (EUA: Emergency Use Authorization) により、ワクチン製造メーカーには完全な訴訟免責が与えられた。



透明性の崩壊

表向きの姿勢
(Public Posture)

内部の現実
(Internal Reality)

有効性 (Efficacy)

安全性 (Safety Data)

「母親と胎児を
感染から守る」

「安全であり、
強く推奨される」

「感染を予防する
効果はない」

「データなし。理論上
の流産リスクあり」

失敗の本質は単なる医学的誤りではない。
制度的な「透明性」の根本的な崩壊である。

「本当の問題は、公開で透明な議論がなく、妊婦本人が自分で判断できる材料を与えなかったことだ。」

The real problem was the lack of open, transparent debate, depriving pregnant women of the information needed to make their own decisions.

インフォームド・コンセントの剥奪。これが、レッドフィールド氏が警告する真の代償である。